第２回大和市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第８期）審議会議事録

日　時：令和元年11月24日（日）午後1時30分～午後２時50分

場　所：大和市保健福祉センター501会議室

出席者：委員12人　事務局14人　傍聴 ２人

配付資料：

* 【資料１】　国の動向について
* 【資料２～２－５】　計画策定に向けた実態調査に関する概要及び調査案
* 【資料３】　大和市エイジフレンドリーシティ行動計画
* 【資料４】　今後のスケジュールについて
* 【参考資料１】　実態調査項目一覧
* 【参考資料２】　在宅介護実態調査票

会議次第：

１．　開会

２．　説明・報告

　　（１）国の動向について

（２）計画策定に向けた実態調査について

３．　その他

４．　閉会

会議内容：

１．開会

２．説明・報告

　　（１）国の動向について

◆委託業者 サーベイリサーチセンターから説明

　　　質疑内容

**委員：介護医療院とは何か。**

事務局：長期療養のための医療と日常生活上の世話を介護保険制度の中で行う施設である。県内でもまだ少なく、相模原市、藤沢市、秦野市にそれぞれ１つ、足柄に２つの合計５施設（2019年４月１日時点）開設している。

**委員：（介護医療院は）新しい制度か。**

事務局：介護費用抑制の動きの中で、以前、介護療養病床から老人保健施設への転換の動きがあったが上手く進まなかったため、新たな介護保険施設として介護医療院を設け、国の方策として転換を進めようとしている。

**委員：前回の改正の際に、地域共生社会など障がい者施策と絡めて施策の推進が謳われていたと思うが、今回の改正では協議されていないのか。**

事務局：今日は介護保険制度に限定しているため、項目として出てきていないが、障がい者福祉や児童福祉とともに、共生社会の推進の議論はされている。国の会議資料は比較的早く公表されるが、議事録は時間がかかるので、実際にどのような協議がされているかを把握するには期間が開いてしまう。

（２）計画策定に向けた実態調査について

◆事務局から説明

　　　質疑内容

**委員：どれくらいの回収数があれば、正式なデータとして扱えるのか。**

事務局：これまでも見直しを行う度に実態調査を実施しており、前回も約65％の回収率である。前回程度の回収率で、十分に信頼できるデータになると考えている。

**委員：介護認定を受けていない一般高齢者の方でも日常生活で困っている方がいると考えるが、そういった方の意見を収集する方法は考えているか。**

事務局：調査を実施する際には、民生委員の皆様や地域包括支援センターにも周知し、対象者から回答支援等の要請があった場合は、対応していただけるよう努める。

**委員：アンケートの結果は関係機関（医療）にも希望すれば提供されるのか。**

事務局：これまでも調査結果は冊子等にして公表しており、今回も来年度に公表していく。関係機関への資料提供も検討していく。

**委員：アンケートを見ないで返してしまう市民もいるので、広報等で周知・協力依頼するようなことは考えているか。**

事務局：これまでも広報等で周知しているが、必ずしも十分に周知できているとは言えないので、民生委員の皆様にもご協力いただくようなお願いをさせていただくかもしれない。

**委員：主観的な経済状況の設問による分析だけでは、介護保険の負担感は適切に把握できないと考えるが、年金収入等の客観的な項目での分析はできないか。**

事務局：年金収入等を設問に設けると回収率が低下する可能性が高く、個人の暮らしぶりは必ずしも収入状況だけが影響しているわけではないので、設問として追加することは現時点では考えていないが、貴重なご意見として承る。また、後半の介護保険の負担感の設問は、介護保険サービスの利用状況による分析を考えての設問として作成しているので、ご理解を願いたい。

３．その他

◆事務局から大和市エイジフレンドリーシティ行動計画の説明

**委員：この計画は行政主体で進めるのか、官民共同で進めるのか。**

事務局：既に取り組んでいる各種計画の施策や取り組みをWHOが求めるエイジフレンドリーシティ行動計画の視点で再整備した計画という位置づけのため、行政主体、官民共同をミックスした形で進めていく。

**委員：後期高齢者には配偶者を亡くした一人暮らしの女性が多くいて、経済的な面も含めて課題があると考えるが、市として何か対策はあるか。**

事務局：女性に特化した施策を行っているわけではないが、結果として、サロン等の参加者の８割は女性となっている。むしろ、男性は閉じこもりがちな傾向にあるため、男性のサロン参加等を促進することで、地域のつながり等が生まれ、女性の一人暮らしの支援もできるのではと考える。また、孤独にならないように、民生委員や地域包括支援センター等とのつながりを生かしていただければと考える。

委員：男女共同参画の計画（やまと男女共同参画プラン）があり、その中に、「男女ともに子育て・介護のできる環境づくり」という項目がある。遺された女性の高齢化については、今後増えると見込まれるので、こういった計画とも連携できるとよいと考える。

**委員：防災無線で行方不明のアナウンスが増えている印象を受けるが、実際のところはどうなのか。**

事務局：警察への捜索願の提出が前提となるため、アナウンスの全数を市が把握しているわけではないが、認知症の方は増えているので、徘徊される方も増えていると思われる。その一方で、防災無線のアナウンスは障がい者の方等のケースもあるので、必ずしも認知症の高齢者とは限らない。

**委員：今年、台風の被害が大きかったが、高齢者に対してどのような対策を講じたのか。**

事務局：市内の想定浸水区域や土砂災害の危険区域にある施設とは、事前に連絡を取っており、万が一の場合には、速やかに連絡が取れる体制となっている。また、施設からは台風に備えて早め対応を取っているとの報告も受けている。

台風通過後、被害状況の把握を行ったが、車のガラスが割れたとか、排気口から逆流があった程度で、人的被害等の大きな被害はなかった。

◆（事務局）今後の審議会の予定は、実態調査を２月頃に実施した後、来年の８月から５回ほど審議会を開催し、新しい計画を策定する予定となっている。また、意見については、「第２回審議会について（意見募集用紙）」に記入し、12月６日までに返信封筒にて郵送していただきたい。議事録（案）は作成でき次第、お送りする。

４．閉会